



脱炭素先行地域

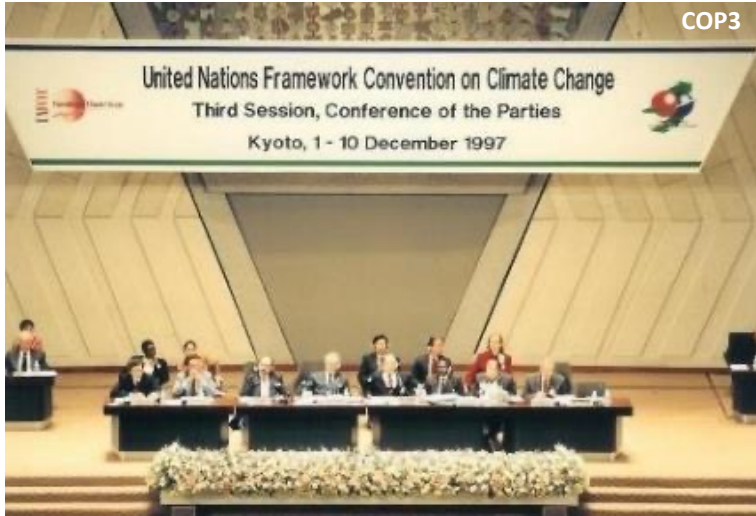
# 京都の文化・暮らしの脱炭素化で地域力を向上させるゼロカーボン京都モデル

## 京都市脱炭素先行地域

2023年3月15日

京都市環境政策局地球温暖化対策室





本格始動は、**COP3**開催地決定

1997年 COP3・京都議定書誕生，市地球温暖化計画 策定

2004年 市地球温暖化対策条例 制定（日本初）

2009年 環境モデル都市選定

2010年 条例全部改正，新計画策定

2015年 SDGs, パリ協定 低炭素から脱炭素へ

2017年 京都議定書誕生20周年

- ・ 持続可能な都市文明の構築を目指す京都宣言

- ・ 地球温暖化対策計画改定 「プロジェクト“0”への道

2019年 全国の自治体に先駆けて「2050年ゼロ」を宣言

2020年 条例改正（2050年ゼロを明記）

2021年 2030年度までの新たな計画策定

2022年 脱炭素先行地域選定

温室効果ガス排出量を  
90年度比15%削減し，目標達成！

# 1. 京都市脱炭素先行地域 概要

## 京都の文化・暮らしの脱炭素化で地域力を向上させるゼロカーボン古都モデル

### 対象とする地域の位置・範囲、需要家数、民生部門の電力需要量等

#### 伏見エリアを中心としつつ全市を視野に入れた文化遺産群・商店街エリア等

伏見エリア

- ・ 市内で最も古い市街地の一つ、寺社や商店街を拠点に地域コミュニティを形成
- ・ 環境関連施設が集積

- ・ 電力需要量 36.9GWh
- ・ 新規再エネ発電設備 8.2MW
- ・ 省エネ削減効果量 2.9GWh

#### 文化遺産群の脱炭素転換

再エネ設備・蓄電池  
再エネ電力調達

15箇所 ⇒ 2030年 100箇所

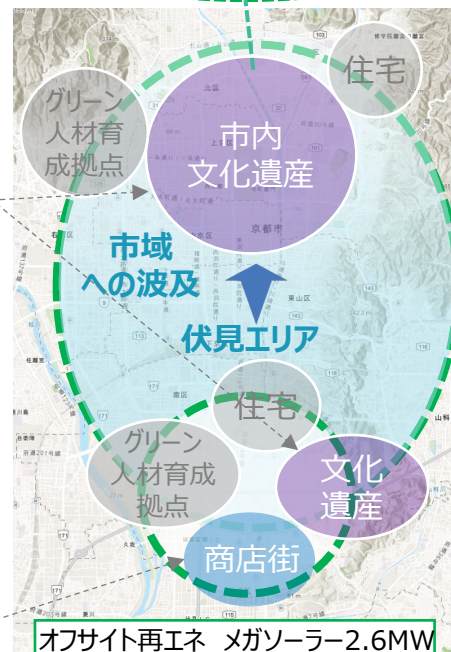
##### <伏見エリア>

伏見稲荷大社、藤森神社  
真宗大谷派（東本願寺）伏見地区寺院  
（東本願寺伏見別院、浄徳寺、光啓寺、専念寺、善通寺、受泉寺）  
醍醐寺、妙福寺、大黒寺

##### <市域波及>

壬生寺  
北野天満宮  
法然院  
京都御苑

京都広域再エネグリッド協議会でエネルギー管理を一元化



#### 住宅群・エリア

- ◆ 既存住宅群 市内各所100戸
- ◆ 市有地活用型脱炭素街区エリア
  - ・ 伏見工業高校等跡地エリア400戸
  - ・ 三宅市営住宅跡地エリア 14戸

#### 伏見商店街エリアの脱炭素転換

PV・蓄電池  
再エネ電力調達

3商店街・187全加盟店

伏見大手筋商店街、納屋町商店街、竜馬通り商店街  
アーケード全長560m



地域コミュニティ拠点

#### グリーン人材育成拠点群

65施設

- ・ 龍谷大学深草キャンパス 28施設
- ・ 立命館大学衣笠・朱雀キャンパス 36施設
- ・ 京エコロジーセンター 1施設

歴史の古い文化遺産や商店街等を脱炭素転換することを通じて、訪れてよし、商ってよし、住んでよしのサステナブルな賑わいを創出

## 2. 文化遺産の脱炭素転換

### 宗教都市・京都から、寺社の脱炭素転換を先導

- 市内小売電気事業者と協働し、寺社向け再エネ100%プランを創出
- 景観に支障を及ぼさないことを前提に、駐車場や敷地内関連施設等、設備導入が可能な箇所を工夫して、太陽光などの再エネ発電設備や蓄電池を導入することや、機器の省エネ改修、再エネ100%電力に切り替えることで、脱炭素転換を目指す。

**15箇所 ⇒ 2030年 100箇所の脱炭素転換を目指す**

#### <伏見エリア>

伏見稻荷大社、藤森神社、  
真宗大谷派（東本願寺）伏見地区寺院（東本願寺伏見別院、浄徳寺、光啓寺、専念寺、善通寺、受泉寺）  
醍醐寺、妙福寺、大黒寺

#### <市域波及>

壬生寺、北野天満宮  
法然院、京都御苑

#### (1) 再エネ100%電気への切替

- ◆ 京都再エネ広域グリッドに参画する小売電気事業者が、寺社向けに再エネ100%電気を供給
- ◆ 寄付付き電気（電力量の最大2.5%を寄付）で、人のつながりを生む地域活動を支援

#### (2) 寺社保有地への太陽光パネルの導入

- ◆ 境内地内の施設や駐車場等へ太陽光パネルを導入
- ◆ 災害時における地域の災害対応力強化にも貢献



#### (3) 太陽光パネルと併せた蓄電池（車載型含む）の導入

- ◆ 夜間も電力供給を確保し、更なる災害対応力強化

#### (4) 電灯のLED照明器具への切替

- ◆ 省エネ（電気代やメンテナンス代の削減にも）





## 日本初のカーボンニュートラル商店街へ



伏見大手筋商店街

納屋町商店街



竜馬通り商店街



- 商店街は、日々の日常の暮らしを支えるとともに、地域の賑わいや人々のふれあいの場
- そのような地域コミュニティの核である「商店街」に着目
- 商店街において、2030年までのカーボンニュートラルを実現する

### 3商店街・187全加盟店の脱炭素転換を目指す

#### (1) アーケードや各店舗への太陽光パネル・蓄電池の導入

- ◆ 薄膜パネルの活用も視野に、商店街に合ったパネルを導入
- ◆ 蓄電池も導入することで、災害時における商店街の防災力・レジリエンス強化にも貢献

#### (2) 共用部や各店舗の再エネ100%プランへの切替

- ◆ 市内未利用地等を活用したオフサイトPPA
- ◆ 寄付付き電気、地域貢献型発電事業でコミュニティを活性

#### (3) 共用部電灯のLED照明器具への切替・各店舗の設備の更新

- ◆ 省エネ（電気代やメンテナンス代の削減にも）

#### (4) 商店街における行動変容の促進

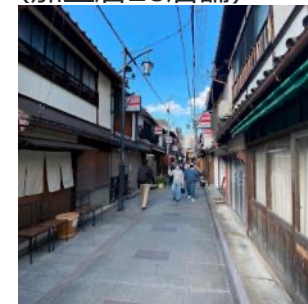
- ◆ ナッジや、ポイントとして還元される仕組みを通じ、商店街を利用する消費者の環境配慮行動を促進



伏見大手筋商店街  
(加盟店118店舗)

納屋町商店街  
(加盟店41店舗)

竜馬通り商店街  
(加盟店28店舗)

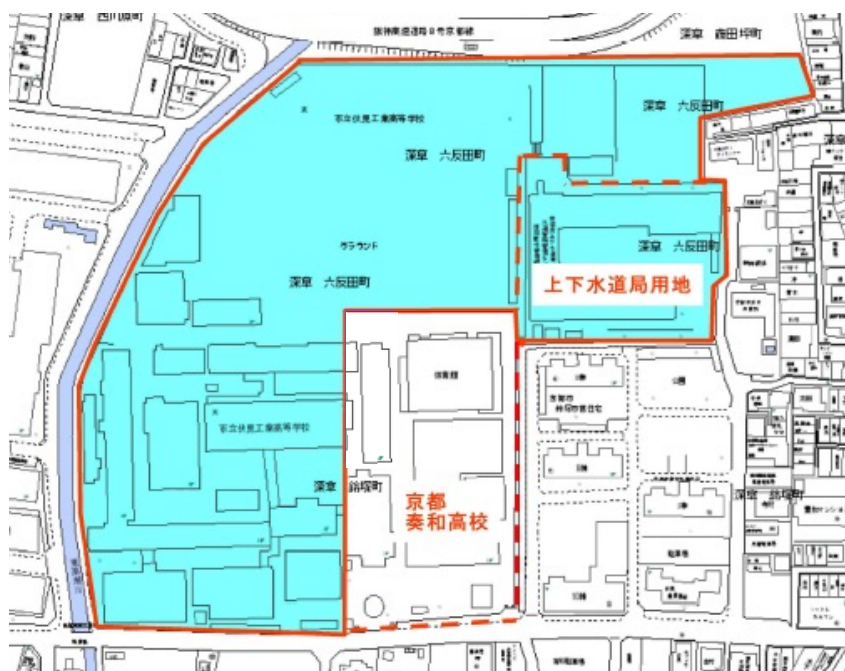


## 4. 住まいの脱炭素転換

### (1) 新築住宅

- 伏見工業高校跡地等（39,000m<sup>2</sup>）において約1,000人規模の新たな脱炭素街区を創出
- 太陽光発電設備、蓄電池、ハイブリッド給湯等を最大活用し、再エネ自家消費を最大化するエネマネを実施

#### ◆ 伏見工業高校跡地・上下水道局用地



（面積：39,100m<sup>2</sup>、最寄駅：伏見稲荷）

#### ◆ 三宅第一市営住宅跡地

（面積：3,300m<sup>2</sup>、最寄り駅：国際会館・八幡前）

- ZEH街区を先行して創出（戸建14戸）

#### 戸建住宅（100戸）

- 次世代ZEH+
- 太陽光発電設備・蓄電池設置
- 建物単位で再エネ自家消費最大化 → 蓄電池制御等
- 充放電設備

#### 集合住宅（300戸）

- ZEH-M Oriented
- 太陽光発電設備・蓄電池設置
- 建物単位で再エネ自家消費最大化 → 蓄電池制御等
- 充放電設備

#### 業務用建物・その他

- ZEB Ready
- 太陽光発電設備・蓄電池設置
- 商業施設、コミュニティスペース等（住民・観光客ともに利用できる空間）
- その他公園等を整備し、賑わいを創出

## (2) 既存住宅のZEHレベル化改修

市内全域を対象に、地域の工務店や優良ストック住宅推進協議会と連携して、既存住宅のリフォーム需要の掘り起こしと合わせたZEHレベル化改修（居室等の部分改修含む）を促進する枠組みを構築。

### 市内で100戸のZEHレベル化改修を目指す

#### <取組概要>

#### 構築

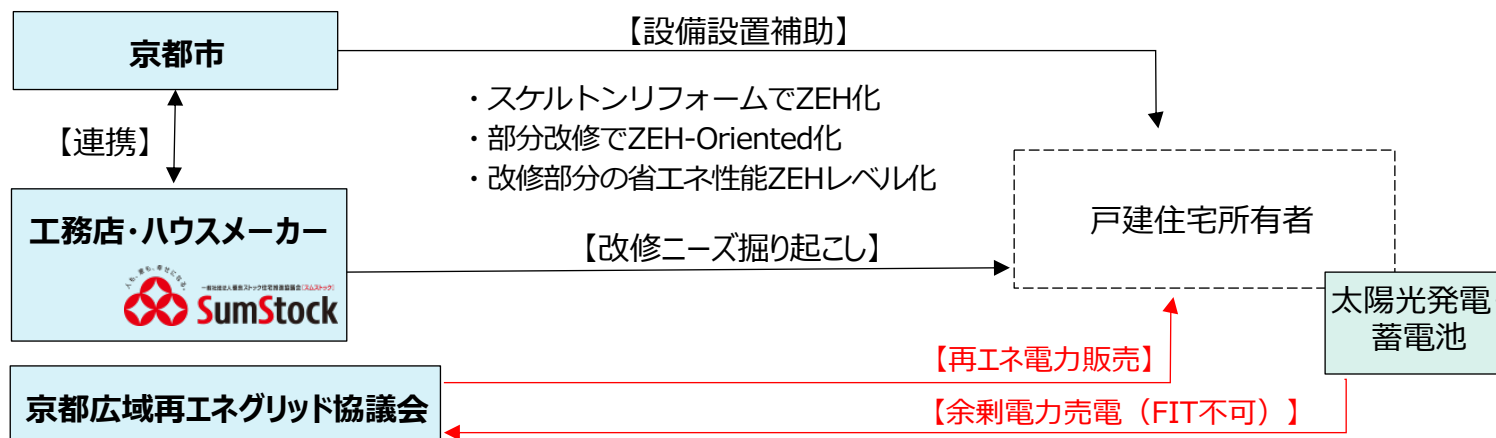
(R4度～R5度)

- ① 地元工務店(京都らしい省エネ住宅事業登録事業者等)、一般社団法人優良ストック住宅推進協議会と業務連携して、既存住宅のリフォーム需要の掘り起こしと合わせたZEHレベル化改修を促進する**枠組みを構築**
- ② ZEH水準誘導仕様基準を踏まえ、居室等の部分改修を含め、改修部分の省エネ性能をZEHレベル化していくための**補助制度を新設** (R6度から実施)
- ③ 各社における**技術者育成**、市内事業者向け勉強会等

#### 実施

(R6度～R9度)

- ④ 戸建住宅所有者に対して、ZEHレベル化改修を働き掛け、補助実施
- ※ 再エネ電力切替えもセット



## 5. 移動の脱炭素化、サステナブルツーリズム

### (1) タクシーのEV化

- ・ 点在する文化遺産等を巡る移動の脱炭素転換を図るため、2030年までに全車EV化（738台）を目指すエムケイ株式会社をはじめとするタクシー事業者と連携し、観光や修学旅行でも利用されるタクシーのEV化を進める。

（※タクシーのEV化については企業独自で実施）

### (2) 駅舎の脱炭素化

- ・ 伏見稲荷大社や、伏見工業高校跡地等における脱炭素街区エリアの最寄り駅である京阪伏見稲荷駅に、京阪電気鉄道株式会社と連携し、太陽光発電設備を最大導入するとともに、不足分を再エネ調達し、駅舎丸ごと脱炭素化を図る。

### (3) サステナブルツーリズムの企画、実施

- ・ 修学旅行生が脱炭素転換した寺社等を脱炭素交通（EVタクシー等）で巡って学ぶ体験をする学習ツアーを、旅行代理店・大学生が企画。ゼロカーボン修学旅行として商品化する。
- ・ ゼロカーボン修学旅行に参加した修学旅行生が、それぞれが暮らす地域へ脱炭素体験を持ち帰ることで他地域への拡がりを期待。
- ・ 国内外からの来訪者に対するサステナブルツーリズムの検討等も実施。





## 6. その他の取組

### 脱炭素転換を支える基盤的取組

#### ◆ 京都広域再エネグリッド協議会（仮称）

市内の小売電気事業者及び発電事業者との連携により、「京都市広域再エネグリッド協議会（仮称）」を創設して、安定的に再エネ供給を行うための体制を整備する。

あわせて、市遊休地を活用し、民間活力により地域貢献型のメガソーラーを整備する。

#### ◆ グリーン人材育成

龍谷大学及び立命館大学と連携し、脱炭素先行地域をフィールドとしてグリーン人材を育成するとともに、その活動拠点となる大学キャンパス等を脱炭素転換する。

#### ◆ ローカル・グリーンインパクトファイナンス

自治体負担のない民間資金供給の枠組を整備する。

脱炭素先行地域の創出に必要なグリーンプロジェクトに対し、民間資金を継続的に呼び込むため、インパクトファイナンスの実施を促進するとともに、金融機関、機関投資家、市民がともに資金の担い手となる脱炭素ファンドを組成するローカル・グリーンインパクトファイナンスのモデルを構築する。

### 脱炭素先行地域から市内全域、他地域への波及

#### <市域全体への展開> 寺社・商店街・住まいといった普遍的なコミュニティの構成要素⇒市域全体へ

- ・ 京都発脱炭素ライフスタイル推進チーム～2050京創ミーティング～と連携し、市民・事業者が自分ごととして取り組む脱炭素アクションに
- ・ 地球温暖化対策条例に基づく再エネ導入/建築士の再エネ説明義務制度等と一体的に取組を促すことで、市域全体に取組を拡大

#### <ゼロカーボン古都モデル・他地域への展開>

- ・ 京都市から小京都（全国40都市）等へ・・・脱炭素転換が困難と考えがちな文化遺産の転換モデルを提示。
- ・ 本山から全国の関連寺院へ・・・本山が集積する京都が有する全国の関連寺院へ波及する影響力。
- ・ 修学旅行生が自らの街に脱炭素体験を持ち帰り。
- ・ スムストックとの連携でZEHレベル化改修促進の枠組みを全国へ。

## 7. 脱炭素の取組に伴う地域課題の解決や住民の暮らしの質の向上等

### 地域コミュニティの活性化

京都広域再エネグリッド協議会（仮称）が、商店街や寺社といった地域コミュニティ拠点を脱炭素転換するために供給する再エネ電力について、**電力量料金の一部（最大2.5%）**を同拠点で**人々のつながりを生む活動費として寄付**することで、**再エネ利活用と地域経済循環・地域活性化の同時実現**を目指す。

活動費を基に、大学生や新たな地域住民を巻き込みながら、**脱炭素をテーマにしたイベントや商品を企画**し、地域コミュニティを活性化する。

### 地域防災対応力の向上

寺社や商店街といった地域コミュニティの拠点が、太陽光発電設備や蓄電池を備えることで、地域における災害時の防災対応力を向上する。

### 環境先進エリアとしての魅力の創出

高断熱で健康・快適に暮らせるエネルギー自立型の住まいや脱炭素ライフスタイルを実践できる脱炭素型のまちづくりをはじめ、再エネ100%転換を実現する主体を創出することで、環境先進エリアとしての魅力を創出する。

SDGs 学習のニーズが高まる中、EV観光タクシーで脱炭素先行地域を巡るゼロカーボン修学旅行という新たな魅力を創出する。